

いわさきちひろ 生誕地・武生 ピエゾグラフィ展

ちひろ 子どもと音楽の絵本



バラのなかで踊るふたり2 1968年

2026/3/7[SAT] ▶ 2026/6/1 [MON]


ちひろの生まれたまち
〈越前・武生〉

 「ちひろの生まれた家」記念館
●主催●越前市観光協会●ちひろ美術館●

いわさきちひろ 生誕地・武生 ピエゾグラフィ展

CHIHIRO
MEMORIAL HOUSE

ちひろ 子どもと音楽の絵本

2026/3/7[SAT] ▶ 2026/6/1[MON]

いわさきちひろは、若いころから欧米の映画や音楽に親しんでいました。青春時代を戦争のなかで過ごしますが、戦後は映画俳優フレッド・アステアの歌や映画に夢中になり、下宿先の部屋で毎日のようにレコードを聞いていたといいます。映画や音楽はちひろの感性を豊かに育み、画家としての創作にも生かされ、独自の絵本づくりにつながりました。

1950年代から1960年代、ちひろは幼児向けの絵雑誌の仕事のなかで、童謡やわらべうたに絵を描いています。「かごめかごめ」や「ロンドン橋がおちる」など、なつかしいあそびをする子どもたちの姿がいきいきと描かれています。また、ウェーバー作曲の「舞踏への勧誘」を元にして描かれた絵本『ふたりのぶとうかい』では、音楽を絵本で表現する試みも行っています。色彩や構図、場面展開などさまざまな要素を駆使して、曲のイメージを絵本化しました。

ちひろが工夫を重ねて描いた、子どもと音楽の世界をお楽しみください。



「ことしの ぼたん」 1965年

【ピエゾグラフィとは】 ちひろ美術館では、2004年より、その時点の作品の状態をデジタル情報として記録し、保存していくアーカイブを進めてきました。同時に、そのデジタル情報をもとにして、「ピエゾグラフィ」の制作をしています。

ピエゾグラフィとは、耐光性のある微小インクドットによる精巧な画像表現で、ちひろの繊細な水彩表現を高度に再現しています。

伝統的工芸品や越前おろしそばなど、越前市観光のお問い合わせは

手仕事



Echizen-shi
JAPAN

越前たけふ観光案内所 ☎0778(42)5257

越前市大屋町38-5-1 北陸新幹線越前たけふ駅隣 道の駅「越前たけふ」内

観光・匠の技案内所 ☎0778(24)0655

越前市府中1丁目2-3 ハピラインふくい武生駅前センチュリープラザ内

echizen-tourism.jp (運営：一般社団法人越前市観光協会)



越前国の中心地として栄えた武生(現・福井県越前市)のまちなか、職人町風情が漂う旧北陸道から少し東に入った路地に面し、静かに佇む古い町屋があります。そこはかつて、質・古着屋が営まれていた商家。この家の離れで、のちに日本を代表する絵本画家となる、いわさきちひろは生まれました。ちひろの母・岩崎文江は当時、武生町立実科高等女学校の教師として単身赴任していました。やがて、ちひろを身ごもると、お産のためにこの家の離れに移りました。そして1918年12月15日の雪の朝、ちひろはここで産声をあげたのです。今も往時の暮らしの面影を残し、静かな時が流れるこの町屋を、「ちひろの生まれた家」記念館として公開しています。



📍「ちひろの生まれた家」記念館

【開館時間】 10:00~16:00

【休館日】 火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始

【入館料】 一般 300円(高校生以下は無料)

※4月1日から入館料が500円に変更となります

※その他の料金についてはHPをご覧ください

【アクセス】(電車) ハピラインふくい武生駅より、徒歩約10分

福井鉄道たけふ新駅より、徒歩約15分

北陸新幹線越前たけふ駅より、タクシー

ご利用で約15分

(お車) 北陸自動車道武生IC・道の駅「越前たけふ」

より、約15分 ※駐車場あり

〒915-0068 福井県越前市天王町4-14

☎0778-66-7112

